

「立候補します」と言えたのは「NWEC」での研修から

熊本県 県つばさの会

野口 ミナ子（のぐち みなこ） 75歳

平成14年、宇土・富合合併推進協議会設置。協議項目はすべて合意し、地区説明会を経て、平成15年12月19日に合併協定書調印式が行われた。しかし3日後に富合町議会が宇土市との廃置分合議案を否決。

私はその合併協議会の委員を務めていた。町議会は協議項目をほぼ全会一致で承認していたのである。

その後公聴会、住民アンケートなどが実施されたが、住民、住民間の混乱は異常な状況になった。平成17年熊本市との任意協議会が設置された。その後町議会解散請求され解散。平成18年7月、町議会議員一般選挙が行われた。

その選挙に私は「立候補します」と手を挙げた。それが言え、議員になったのを私は県の「男女共同参画社会づくりリーダー研修会」に参加したことが大きいと思う。

国立女性教育会館での研修後の報告書に次の言葉があった。

「私はこう思います」とはっきり意思表示できるようになりたい。自分をもっと発言し行動するためには、自分の頭でよく考え、仲間と議論し、本を読み、学ぶことを続けていこう」と。

政策を決めるのは「議会」だ。手を挙げ、仲間たちと「いい選挙」をした。熊本市との合併により、3年弱の議員活動だったが、大切な経験となった。